

104-157

問題文

制吐薬の作用機序に関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

1. アブレピタントは、嘔吐中枢及び迷走神経終末のタキキニンNK₁受容体を遮断することで制吐作用を示す。
2. メトクロプラミドは、CTZ(化学受容器引き金帯)のドパミンD₂受容体を遮断することで制吐作用を示す。
3. ジフェンヒドラミンは、嘔吐中枢のヒスタミンH₁受容体を刺激することで制吐作用を示す。
4. プロメタジンとは、迷走神経終末のドパミンD₂受容体を遮断することで制吐作用を示す。
5. ラモセトロンは、消化管内在神経叢のセロトニン5-HT₄受容体を遮断することで胃運動を抑制し、制吐作用を示す。

解答

1, 2

解説

選択肢 1,2 は妥当な記述です。

選択肢 3 ですが

ジフェンヒドラミンは、抗ヒスタミン薬です。ヒスタミン受容体を「遮断」します。「刺激」ではありません。よって、選択肢 3 は誤りです。

選択肢 4 ですが

プロメタジンは H₁ 受容体遮断薬です。動揺病（乗り物酔い）に伴う悪心、嘔吐、めまいに使用されます。「D₂ 受容体遮断」ではありません。よって、選択肢 4 は誤りです。

選択肢 5 ですが

ラモセトロン（イリボー）は「5-HT₃ 受容体遮断」作用を示します。「5-HT₄」ではありません。よって、選択肢 5 は誤りです。

以上より、正解は 1,2 です。

参考)